

# FEEL ON FORM ～BETWEEN SOFA～

八代研究室

00212194

丸山 聡宏

クッション構造    ブラックウォールナット    五枚組接

## 1. 目的

ソファは本来座ることが目的であるがその延長として「寝る」という行為を誘発する。ソファに身を預けた安心感から徐々に眠くなり、眠ってしまう。一方、デザイン先行のソファや椅子は、疲れたり腰が痛くなったりと、長く座ってられないものも少なくない。「眠くなる」あるいは反対に、「疲れる」というのは構造とクッション性が関わっていると気付いた。そこで、ソファで眠くならないというのは難しいが、眠くならない要素を取り入れたソファの制作を行うことにした。

## 2. 設計プロセス

眠くならない要素を取り入れるため、今までいろんな椅子・ソファに座ってきた経験を元に、家具職人の意見を取り入れた結果、以下のような形状・材料になった。

形はル・コルビジェデザインのソファ LC3 モデルにインスピレーションを受け、自分のイメージ・経験を取り入れたものにした。ソファの本体ベース部分は、眠くならない形状・材料として以下の通りにした。①クッションが硬いほど眠くならないが疲れしてしまうので疲れない硬さにした。②座面と背もたれの角度は眠くならないように 90 度に設定し、さらに「包まれている、全身を預けている」という感覚を取り除くために背もたれ(シートバック)は低く設定した。③座面高は、高いほうが眠くならないのだがソファなので低くし、座部分よりも背もたれのウレタン層を一層減らして背もたれを若干硬くした。

アーム部分は木そのものの素材を活かすため、ブラックウォールナット材を使用し、ホゾ組みをした。

この木を選定した理由は、2 年次のインターンシップで無垢の家具を製作している工房へ行き、そこで学んだ木の中で、加工のしやすさ・材質・色が理想の木であったため、卒業制作で取り入れようと構想していたので使用した。アーム角部分は、五枚組接という技法を採用した〔写真 6〕。完璧な木の良さを伝えたかったため、外側から穴を開けてボルトで留めるのではなく、内側から穴を開けてボルトで留めることで木の表面に全く傷をつけることなく、更に本体とアームをどのように組んだかわからないような、ディテールにした。

## 3. 制作プロセス

### 3-1. 材料

ブラックウォールナット、ホワイトパイン、ラワン合板、35mm木ねじ、32mm木ねじ、オニメナット、モールドウレタン、FR ウレタン、626 ウレタン、EL40 ウレタン、綿、ヌード起毛、黒金巾、カバー生地、PI ボンド、硬化剤

### 3-2. 道具・機械

鉋、ノミ、鋸、プラスチックハンマー、差し金、コンベックス、ハタガネ、クランプ、サンダー、インパクトドリル、タッカー、横切り盤、帯ノコ、昇降盤、手押し鉋、自動鉋、

### 3-3. 作業工程

- ①設計・デザイン考案
- ②図面作成
- ③材料発注、材料買い出し
- ④本体木部(本体ベース)制作〔写真 1〕
- ⑤ウレタン加工・本体へのノリ付け〔写真 2〕
- ⑥本体ヌード起毛引き込みカバーリング、カバー

生地発注

- ⑦アーム部制作(製材、寸法取り、加工) [写真 3]
- ⑧アーム部接着、表面仕上げ
- ⑨アームと本体の仮組み・微調整
- ⑩本体生地カバーの型作成、裁断、縫製 [写真 4]
- ⑪アームと本体のボルト組み [写真 5]
- ⑫本体にカバー張り込み、本体底面金巾張り

#### 4. 反省点・課題

座部分の3層目に入れてある中心を膨らませる為のウレタンを、角を削らずに入れたため滑らかな膨らみにならなかった。アームと本体とをボルトで留める方法に、仮組みの時に決めた為、作業が止まってしまった。作業途中での設計変更が多く、ソファを作る工程・細かい設計等、下調べ不足を痛感した。しかし、設計変更を重ねることで当初の計画よりも良いものが出来たと言える。今後制作していく上での課題は、設計から作業工程までの詳細を十分に計画し、制作に取り組むことである。



写真 1. 本体ベース



写真 2. 本体へのウレタンノリ付け



写真 3. アーム完成

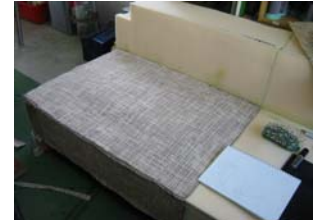


写真 4. カバー型作成



写真 5. アーム・本体組み



写真 6. 五枚組接ぎ

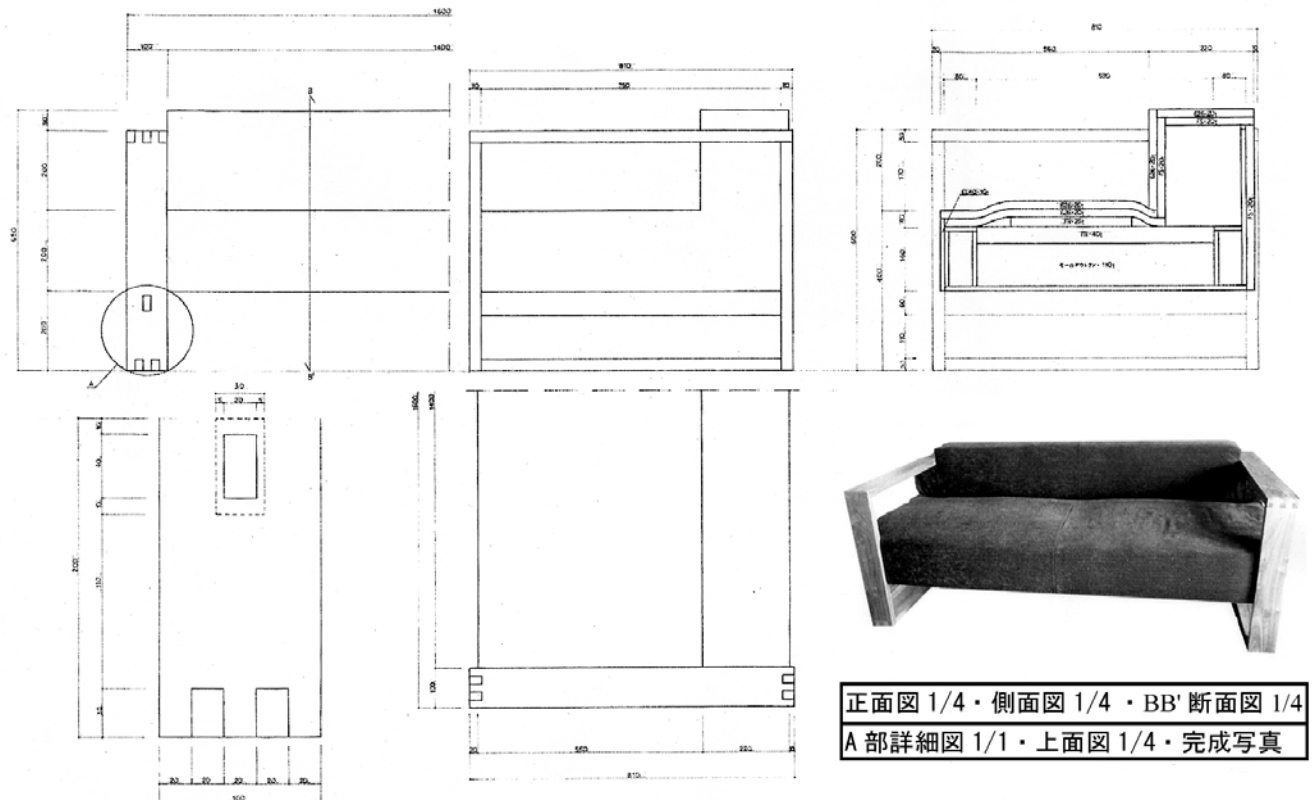


図 1. 総合図面